

私のすすめるこの1冊

赤川 佳穂 (数学科 講師)

『科学的看護論 第3版 <新装版>』

薄井 坦子 (著)

本書は看護を学ぶ人の理論書です。その中で、看護師は患者に対して「第一の関心(知的関心)」、「第二の関心(心のこもった人間的な関心)」、「第三の関心(実践的・技術的な関心)」を注ぐ必要があると述べられています(p107)。ナイチンゲールが『看護覚え書』において述べた、いわゆる三重の関心というものです。

本書の著者である薄井氏は、日本においてナイチンゲールの看護論を引き継ぎ発展させた方です。薄井氏はあるインタビュー¹⁾で次のように述べています。「ナイチンゲール流に言えば、第一の関心を注いで第二の関心を重ねた時第三の関心が注げて、どうすればいいかがわかるのよ。ちらっと浅い第一の関心で、すぐ第三の関心に飛ぶからダメ。(なぜ飛ぶかという)何かしなければいけないと思っているからよ。看護は何かをする人だと思ってるのよ」。

私は、この指摘が教育現場にも当てはまるのではと感じました。例えば、算数の授業で「 $5+1=6$ 」を教える場面を想像してください。第一の関心がちらっと浅い場合、教師は、児童の発達段階や理解の状態を十分に把握しないまま、すぐに「5 と 1 を足すと 6 になります」と説明し、計算練習をさせてしまうかもしれません。第一と第二の関心を重ねた場合、教師はまず、この児童が「5」という数概念をどの程度理解しているのか、指を使って数えるのか、抽象的に理解しているのか、観察します(深い第一の関心)。同時に、この児童がなぜ算数を学ぶ必要があるのか、どのような可能性を持っているのか、その子を一人の

人間として思いやる心を持ちます(第二の関心)。こうして初めて第三の関心が注げて、その児童に必要な教え方が見えてきます。指を使う段階を大事にするのか、図で示すのか、計算式を書かせるのか、その選択が根柢を持ったものになります。

また薄井氏は、“看護とは何か”がつかめなくて悩んでいる看護学生との対話を通して、次のように述べています(p113)。「私たちのまわりを見渡すと。看護学生に限らず看護師にも、看護教師にも、不安定な気持をもっている人が多すぎるように思う。一方では毎日の仕事を、生活の糧を得るための手段とわりきってお茶をにごして過ごす人々も少なからずあって、そのような人々に比べると、不安定な気持を抱いて自らを苦しめている人々のほうがはるかに人間的であるといえるのであるが(なぜならば“問いかける存在”が人間であるから)、看護活動を絶対的に必要としている社会的な観点に立つと、看護の担い手たちが自信をもって仕事をしていないとしたら、また目的をもって前向きに歩みを進めていないとしたら。大きな損失だと言わざるを得ないだろう」。

薄井氏は本書で、“看護とは何か”という本質的な問いに対して、真摯に向き合っています。私は、その内容が看護だけに留まらず、教育に対するヒントを与えてくれるように感じています。

1) 梶山委都子:二つの実践の認識論による看護職の生涯学習の検討:薄井坦子『科学的看護論』と D.A.ショーン『省察的实践とは何か』をめぐって, 千葉看会誌, Vol.15, No.2, 2009. 12.

第41回 うたとおはなしの会報告



4月25日(土)に、附属図書館にて第41回「うたとおはなしの会」が開催された。当日は朝から青空が広がる爽やかな天気となり、大勢の親子連れで会場はいっぱいになった。

まず最初に幼児教育専攻学生5名が「ポンポンと春がきた」を歌いながら登場すると、待ちかねた子どもたちから大きな拍手がおこり、楽しい雰囲気で開催した。続く、パネルシアター「こいのぼりのかぞく」では、こいのぼりのお父さんが会社に出かけたり、お母さんが晩御飯を作ったりするなど、私たちと変わらない日常に親近感を感じて、思わず笑みがこぼれる様子が見られた。

続いて、「春」(ビバルディ作曲)を奏でながら、どれみふぁそったくん扮する「森の音楽隊」が登場すると、本物の楽器の演奏を子どもたちが食い入るように見つめる様子があった。まず、音楽隊は、バイオリン、アルトサクソ、ホルン、ピアノ、などの楽器で名曲「花のワルツ」(チャイコフスキー作曲)を披露した。続いて、音楽隊の一人(男子学生)が子どもたちに人気の絵本「はらぺこあおむし」の歌を披露した。美しい音楽の虜になった子どもたちは、今度はそれぞれ好きな打楽器を手にして「さんぽ」(「となりのトトロ」テーマ曲)の演奏に参加した。1歳男児と参加した保護者は「楽器で演奏するのが、すごく楽しそうでした」と感想を述べていた。

楽器演奏で盛り上がった後は、手遊び「キャベツの中から」を親子で楽しみ、最後の演目、人形劇「ぼんたのじどうはんばいき」が始まった。子どもたちは、動物たちがお願いしたものが自動販売機から出てくるかどうか、興味津々の様子で身を乗り出して見ている。そして最後にぼんたとぼん子が友達になるシーンでは、「よかったね」と笑顔で顔を見合わせる親子の姿が多くみられた。5歳男児と参加した保護者は「この絵本は読んだことがあったけれど、今日の人形劇を見て、涙が出るぐらい感動しました」と、感想を述べていた。

エンディングでは4月7日に入学したばかりの1回生が登場し、全員で「やあ!」を合唱して閉会した。子どもたちには、学生手作りのこいのぼり(色画用紙ときらきらシールで製作)がプレゼントされ、子どもたちは大喜びの様子だった。2歳女児と1歳男児を連れて参加した保護者は「皆さんのやわらかい笑顔がとても素敵で、子どもたちも安心して聴くことができました」「音楽も劇も素晴らしく、とても楽しかったです」と感想を述べていた。

今回は、春に見られる様々な「出会い」を想定し「ともだち」を題材に、劇や音楽の選定を行った。今後も、地域の乳幼児や保護者の心に届く会となるよう学生と共に努力を重ねていきたい。

幼児教育科 平井恭子

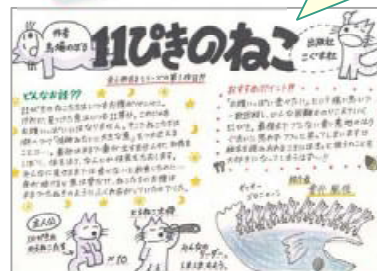


児童書コーナー(南館1階)

幼児教育科主催
えほんのもり

今月の絵本カード(学生作)

『11ぴきのねこ』
作:馬場 のぼる
出版社:こぐま社



※児童書コーナーに
かわいいカードが
飾られています。
ぜひ見に来てくだ
さい。

保育士試験対策コーナー

保育士試験に関連する絵本・紙芝居などを、6月1日(月)から6月28日(日)まで南館1階の児童書コーナーにて展示します。

京都教育大学 それはかなう夢講座

「それはかなう夢講座」では、本学の教職員が、学部、大学院のすべての専攻、研究科の学生や教職員の皆さんを対象に、科学の魅力をわかりやすくお伝えしていきます。

第51回の報告 YouTubeで公開中

【講師】神崎 真実(教育学科 講師)
【テーマ】不登校を通して学校コミュニケーションを考える

主催:「現代的ニーズを踏まえた「理系」教員養成のための
カリキュラム開発」プロジェクト委員会
後援:京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館

今までの回も視聴
できます。ぜひ、
ご覧ください!



おすすめ本紹介原稿を募集します!

あなたのおすすめ本を紹介しませんか?

図書館に所蔵されている本の中から、皆さんの愛読書や心に残っている一冊を紹介してみませんか。寄稿いただいた原稿は、図書館ニュースに掲載いたします。

【文字数】300~400字程度

【校正】1回のみ

【提出方法】原稿を Word ファイルで作成し、メールに添付して library@kyokyo-u.ac.jp 宛てにお送りください。

【掲載方法】掲載の可否・編集については図書館にご一任ください。

皆さんからのご投稿お待ちしております!



電子ブック全文試し読み実施中!

紀伊國屋提供プラットフォーム KinoDen における電子ブック全文試し読みを実施中です!

普段は目次程度しか読めない試し読みが、期間中は1冊につき5分間読み放題!!

また、気になった電子ブックの購入リクエストもできます。(リクエストは利用統計や選書方針を元に購入可否を決定します)この機会にぜひ、電子ブックの試読&リクエストをご利用ください!

【実施期間】6月1日(月)~7月31日(金)



ラーニングcommonsに情報処理センター(IPC)プリンタを設置しました

ラーニングcommonsの端末席近くに、情報処理センター(IPC)のプリンタを設置しています。印刷はポイント制で、IPC 端末にログインできる学生であれば利用可能です。

A4モノクロ印刷のみで、ラーニングcommonsおよびグローバルスクエアの端末から印刷できます。

ぜひご利用ください。



新生活応援コーナーを設置しました:報告

学生アルバイトが「新生活に役立つ本」を選んで展示しました!

【展示期間】4月30日(木)~

5月30日(土)

※展示終了後も図書リストはホームページからも確認できます。



リクエストと投票で話題の本を読もう!

学生・教職員のみなさまからのリクエストをお待ちしています。どんどん参加してください!リクエストは随時受付中です。

【投票期間】5月14日(木)~6月12日(金)

自動貸出機を更新しました

3月に自動貸出機を更新しました。画面のデザインは新しくなりましたが、これまでと同様に閲覧証(学生証・教職員証)と本を持ってきて貸出することができます。

自動貸出機のとりに使い方のポスターを掲示していますので、貸出する際の参考にしてください。



教育資料館 まなびの森ミュージアム

【6月の開館日時】

1日(月)、8日(月)、15日(月)、22日(月)、29日(月)
14:00~17:00

教育資料館 まなびの森ミュージアム
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>

論のくちび理のむすび

今回の執筆者 徳岡 慶一 (教育学科 教授)

戦前期保健婦養成教育における「教育学」教育の位置 —看護師養成教育における「教育学」教育の位置づけを解明するための基礎的研究—

徳岡 慶一

京都教育大学紀要 2026, No.148, pp.129-146
URI: <http://hdl.handle.net/20.500.12176/10104>



看護師養成カリキュラムにおける「教育学」は、教える側にとって難所の一つとされています。その根底には、「看護師に必要な教育学とは何か」が曖昧であるという問題があります。看護の教育的機能には、大きく分けて「後輩の育成」と「患者教育(看護師による患者の自立支援)」の2つがありますが、一般的な教育学の枠組みでは、後者の「患者教育」が見落とされがちです。また、患者教育の対象の多くが成人であるため、本来は「成人教育学」の視点が不可欠であるにもかかわらず、ここも十分に意識されていません。さらに、カリキュラムの配置にも課題があります。まだ臨床現場を知らない1年次に授業が組まれることが多く、教員側の理解不足も重なって、学生が学びの意義を見出しにくいのが現状です。

では、なぜ看護師養成カリキュラムに教育学が組み込まれたのでしょうか。そのルーツをたどると、教育学を必修化した1951年の指定規則改訂に行き着きます(現在、教育学は選択科目)。これは、戦前から教育学を取り入れていた保健婦養成の流れを汲んだものでした。そこで本稿では、まずは原点である戦前の保健婦教育において、教育学がどう位置づけられていたのか、その背景を考察しました(戦後の経緯の検討は次稿に譲ります)。

実は私自身、昨年度から約30年ぶりに看護学生を対象に教育学の講義を担当しています。4年生を対象とする現在の環境は、非常に教えやすいと感じています。学生たちは既に臨床実習で患者教育の実際を経験しているので、最初に教育と看護の共通点や役割を丁寧に説明すると、教育学をしっかりと「自分事」として捉えてくれるからです。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要148号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>に掲載されています。

開館日程 □9:00-20:00 ■9:00-17:00 ▲10:00-17:00
●9:00-21:00 ■休館(CLOSED)

2026年6月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

6/1 創立記念日

2026年7月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

7/1 館内整理日
7/25 大学院入試

※開館日程につきましては、変更となる場合がございますのでホームページをご確認ください。

●京都教育大学附属図書館ホームページ → <https://www.kyokyo-u.ac.jp/library/>



← 公式 Instagram

アカウント名称: 京都教育大学附属図書館
ユーザーネーム: @kyotokyoikuunivlib

京教図書館 News No.309 (2026年6月号)

発行日: 2026年6月1日

編集発行: 京都教育大学附属図書館

問い合わせ先: library@kyokyo-u.ac.jp



国立大学法人
京都教育大学
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION